



目次

巻頭言 附属図書館長就任にあたって	1
特集 弘前大学図書館	3
本との出会いを楽しむ<第13回>	5
図書館に関する話題<第13回>	6
他大学図書館紹介	7
Library News	9
弘前大学出版会より	10
本学教員等著作寄贈図書・資料一覧	11

## 附属図書館長就任にあたって

附属図書館長 郡 千寿子



新しく館長に就任した、郡千寿子と申します。前館長の長谷川成一先生は、6年間、図書館の管理と運営に尽力され、貴重資料の整理や文系図書の充実をはじめとして、数々の新たな事業を成し遂げてこられました。歴代の館長は、大変立派な先生方ばかりですので、私のような者の就任に不安を感じていらっしゃる方が多いかもしれません。しかし、そうした周囲の声を逆手にとって、頼りない未熟な館長を何とか手助けしなくてはならない、と思ってくださる教職員の支援者を増やしつつ、自分なりのスタイルを模索したいと思っています。

みなさんにとっての“図書館”は、どんなイメージがあり、またどんな役割をもった場所でしょうか。私にとっての図書館は、探検する場所であり、思索する場所であり、癒される場所でもありました。全国の国立大学の附属図書館は、教職員の証明書を示せば、いつでもどこでも出入りが許されるシステムになっています。ですから、学会や会議で出張すると必ず、近隣の大学附属図書館に立ち寄り、探検することが私の楽しみのひとつに

なっていました。図書館には、その大学の個性や姿勢が凝縮されているという側面があります。こういった分野の図書の所蔵が多いか、書架の配置や広報のあり方はどうか、厳粛で静かな図書館か、明るく利便性のある図書館か、などなど、図書館内には、それぞれの大学によって違う空気が流れています。つまり、図書館ごとの個性があり、雰囲気があるといえるでしょう。

図書館という器、つまり建物だけでなく、中にいるスタッフや利用者の様子によってもその空気感は左右されます。親切で愛想のよい図書館員がいるかと思えば、厳格に管理をしっかりとする図書館員もいらっしゃいます。また、雑誌コーナーがにぎわい、楽しげに利用している方もいれば、一心不乱に勉学に勤しんでいる学生の方もいる。どのように図書館が管理運営され、また利用者がどのような姿勢でその図書館を使っているか、といった要素にも、図書館の雰囲気、ひいては図書館での居心地の良し悪しが変わってくるように思うのです。

管理運営する側と利用する側は、決して分化できるものではなく、その両者が一体となって附属図書館が存在するのではないのでしょうか。現在改修中の本学図書館は、10月にリニューアルオープンの予定です。建物が改修され、新しい姿を現します。その機会に外見だけでなく、中身や雰囲気、利用者の意識も、みなさんと一緒に再構築できないかと思っています。

どういった立場の人—管理する人、利用する人—も、図書館の居心地の良し悪しを左右する、その一翼を担っています。それを自覚し、それぞれの立場においての図書館像について再検証してみてください。

私は、図書館内の参考図書コーナーに並ぶ、日本最大の国語辞典『日本国語大辞典 第二版』（全十四巻）の語誌執筆や編集に携わるなど、日本語史を専門としています。職業柄、図書館には、何かの調べものがあるって資料を探索しに行く場合もありますが、必ずしも目的があるとは限りません。疲れたとき、ふと図書館に足を運び、何も考えずにふらふらと館内の図書の背表紙をながめていることもあります。たくさんの本に囲まれた静かな

空間で、行き詰った研究論文の続きを思考しつつ、ぼんやり過ごすこともあります。どちらかといえば、自分のなすべきことを確認する空間として、気分転換する場所として利用してきたことが多いかもしれません。目的のあるなしを問わず、また私の気持ちの浮き沈みに関わらず、図書館はいつも、しっかりとそこに存在し、望むときに望むように受け入れてくれる場所でした。

再度、みなさんに問いかけます。みなさんにとっての“図書館”は、どんなイメージがあり、またどんな役割をもった場所でしょうか。あるいは、どんな図書館にしたいでしょうか。図書館の目指す姿とはどういうものでしょうか。さまざまなご意見を参考にしながら、弘前大学ならではの雰囲気を醸し出せる、より良い図書館を一緒に作っていただきたいと願っています。どうかみなさんのお力をお貸しください。

新米館長は、図書館職員に支えていただきながら、そして利用者である教職員と学生のみなさんに教えていただきながら、日々奮闘努力したいと思います。

（こおり ちずこ）

# 特集 弘前大学図書館

今回の特集は、現在も附属図書館をよく利用されている名誉教授の栗原先生（教育学部）と本瀬先生（理工学部）から原稿を頂きました。

## 附属図書館とわたし

弘前大学名誉教授 栗原 靖

弘前大学に赴任する以前に、わたしが持っていた津軽のイメージは、無論、太宰治の津軽でした。しかし、実は太宰はおなか一杯といったところもあります。わたしの場合、時間的には北畠八穂の津軽の方が先でした。戦後まもなく、昭和21年の秋、少年少女雑誌『銀河』の創刊号に「12歳の半年」が載りました。注目していたところ、翌年から「ジロー・ブーチン日記」の連載が始まり、それがわたしの津軽の原型になりました。そういうこともあって、これが載っている『銀河』を探しましたが、附属図書館には、残念ながらありませんでした。とてもいい雑誌なのですが、この雑誌を所有している図書館は意外に少ないようで、国立大学法人では奈良女子大学と大阪教育大学だけです。今では、『北畠八穂児童文学全集』などでもこれは読めます。だがそれもここにはないようです。青森出身の作家なのに、弘前大学、北畠八穂に対して少し冷たいのではないかと思ったりもします。

大学の図書館というのは当然のことですが、その大学の歴史に左右されます。青森師範、旧制弘前高校由来の、時代を感じさせてくれる書物を開いて見るのがわたしは好きです。その内容はわたしの理解を超えています。林鶴一の『数学叢書』とか、辻村太郎の『日本地形誌』とか、高田保馬の『社会と階級』、『洛北集』とか、開いて見ると大正の終わり、あるいは昭和の始めの「におい」がします。南日恒太郎の『和文英訳法』（増訂版）があつたりします。子どもの頃の記憶の中の本棚では、その隣に河上肇の『貧乏物語』がありました。で、ここにもあるだろうと探してみたのですが、この図書館にはないようです（戦後の岩波文庫版は無論あります）。弘前高校（旧制）が誕生する前にこれは絶版になっていたのかも知れません。

安岡章太郎の『流離譚』によって天誅組の話を知りました。そのスポークスマンだった伴林光平の全集がここにあることを書庫で偶然発見しました（佐々木信綱編、昭和19年）。実はこの全集、なにもめずらしいものではなく、CiNii(サイニィ)で調べたところでは、一部の例外を除いて、ほぼすべての国立大学法人の附属図書館にあります。今では理解しがたいですが、戦争末期の気分に応えるものがこの人にはあったということでしょうか。実はかれの全集、もうひとつあつて（小野利教編、1925年）、こちらの方を持っている図書館はご当地の奈良とか、大阪近辺の大学は例外として、他にはあまりないようです。時勢の変化に対応しているものと思われまふ。図書館はそういうことを実感させてくれる場所でもあるようです。

わたしの専攻は、資料をあつめて、これを分析し、結論を出すような類のものではなかったもので、そういう意味で附属図書館を利用したことは実はあまりありません。だが、大学の図書館、わたしは結構好きです。何かあるとわたしは図書館の書庫に入り込んで遊んでいました。こっそり蔵に入り込んで親のラブレターを見つけるような、あるいは、野の道を散歩してワルナスビの花を見つけるにも似た発見の宝庫としての面白さが図書館にはあります。客観的には「それがどうした」としかいいようがないものでも個人的には面白かったりします。図書館本来の役割ではないのかもしれませんが、課題を持って文献を検索するという利用の仕方とは別に書棚のある空間そのものを楽しむという利用の仕方もあるのではないかと思います。

（くりはら おさむ）

## 図書館生活

弘前大学名誉教授 本瀬 香



定年後丸7年になります。その間論文3報と1冊の本を書きました。ほぼ毎日、運動をかねて大学図書館か市立図書館へ通っています。「少年老い易く学成り難し、されど、老人は1日にして成らず」と弁解している毎日です。

主に自分の勉強ですが、大学図書館ではもっぱら数学の本と新聞です。小野孝先生の数論序説を読んでいて、思いついた結果が3番目の論文になりました。数学の論文を書く場合は殆ど英語です。日本語で書かれた論文は、国内大学紀要か、日本数学会の雑誌「数学」位でしょうか。この本を引用するにあたって無論、書名の後に(in Japanese)として引用すれば良いのですが、英訳本がないか探したところ大学にありました。それも著者の英訳本、見つけたとき非常に幸せな気分でした。また、E. Artin の講義録 Theory of algebraic numbers(ドイツ語の英訳)が弘前大学にあるとは思っても見ませんでした。現役時代も大学の図書館に時々行っていましたが、教室の図書でほぼ間に合っていました。上記のことは私にとって以外な発見となりました。この2冊を配備した方と図書館に感謝です。

市立図書館では、絵本、小中学生用に書かれた本、新聞、数学の本などを見ます。これらの本には教えられることが多いです。中でも、環境問題に関心のある私には、写真集「南極がこわれる 藤原幸一著、ポプラ社、2006」に驚き、著者の努力に感服しました。高円宮妃 久子殿下の「序文にかえて」の文も簡潔で要を得た文章だと思いました。

大学図書館は現在、改修工事中です。改修前の図書館で、私が最も不満だったのは1階に事務室、館長室があり、2階にメインカウンター、閲覧室があったことです。1階に閲覧室があるのが望ましい。利用者のことを最優先に設計されるのがよ

いと思います。私が弘前大に来たときは、2階利用者入口への外の階段は屋根がなく冬は雪が積もっていました。しばらくして、屋根が付きましたが、吹きさらしなので、強風、大雨、吹雪のときは難儀です。今まで事故がなくて幸いでした。定年間近のころ、和歌山大学の図書館を利用させてもらいました。お城の近くにあった和歌山大学は、山の上へ移転しました。私の友人に聞いたところによれば、交通の便が悪い代わりに、図書館に最も力を入れ、建設したとの話でした。私は国内外を問わず多くの図書館を見せてもらいましたが、当時の私には和歌山大学図書館が1番でした。

すこし話は変わりますが、陽気のよい日には、時々、市立図書館から、食事や散歩にでかけます。弘前公園、植物園が散歩地で、たまにはベンチに腰掛けて勉強もします。

私の70才の誕生日の2011年12月26日、弘前公園の「二の丸大シダレ」が根元から倒れました。偶然とはいえ不思議な縁を感じ、私にとって重い出来事でした。樹木医諸氏の尽力で、何とか持ちこたえ、翌年の春に、他の桜に比べて見る影もないが、なんとか花をつけた。私が赴任した1985年の春の夜桜見物では、着物を着た美人がこのしだれ桜をバックに写真を撮っていました。美人もさることながら、その時のこの桜はすばらしく美しく感じました。今でも、目をとじればはっきりとその情景が浮かびます。今年2014年も花は少ないがきれいな花を咲かせていました。1914年にこの桜は宮城県人会から寄付されたうちの1本で、移植から今年で100年、勇気づけられました。

最後になりましたが、元図書館長の松原邦明先生が去年2013年12月19日にお亡くなりになりました。先生は豊泉の名づけ親(豊泉創刊号 参照)でした。心からご冥福をお祈りいたします。

(もとせ かおる)

## 本との出会いを楽しむ 第13回

### 「シーシュポスの神話」との出会い

農学生命科学部准教授 赤田 辰治



大学への道すがらふと歩調を緩め、自分は一体何を急いでいるのかと思ったことがあります。ちょうどその頃に出会ったこの本の主題は不条理の考察です。カミュは“l'absurde”（不条理、ばかばかしい）という言葉に特別の意味を持たせていて、ここでは「人が世の中を理解しようと強く希求しているのに対し、世界は全くの無関心であり峻厳であるという、孤独な個人と冷酷な世界が対峙している状態」をさしているそうです。つまり、人生に苦難はつきものですが、現代人は神にすぎること主義主張を強制されることもなく、自由に考えることがゆるさされており、それだけにかえってどのように生きるべきかという問題に直面していることと無関係ではないと思われま

す。不条理精神を追求した先人として、ニーチェの哲学やドストエフスキーの文学などが紹介され、過去の偉大な精神が異なる言葉と芸術で不条理を表現してきたことがわかります。しかしながらその高名な人たちでさえも、最後まで不条理にとどまることはありませんでした。そして彼らはずいぶん超人や神の存在に光明を求めるわけですが、それは不条理の人間のひたすら謙虚に実直に自分の知力で世界を理解しようという決意からみれば逃避であると断じなければなりません。

では、不条理に生きることは難しいのでしょうか？カミュは『異邦人』の死刑囚の明日なき身と

同様に、不条理の人間は有限の人生のなかで未来の希望にしばられることなく、今をあますところなく汲み尽くすことを欲することによって、現時点における精神的自由と生への強い情熱を持つに至ると説いています。本の題名にあるシーシュポスは神話に出て来る不敵な神ですが、重い罰を背負わされ、毎日重い石を転がして高い山の上まで押し上げなければなりません。押し上げた石が転がり落ちるとまた同じことの繰り返しです。そのような暮らしの中で唯一のやすらぎは転がり落ちる石を追いかけて山を下るそのすがすがしいひと時にしかないのですが、その全てをよしとする姿が描写されています。

カミュの精神は小説『異邦人』と『ペスト』で大きな成功を納め、『反抗の人間』では不条理精神の連帯を提唱して社会的反響を呼びましたが、サルトルとの論戦ではあまり形勢が芳しくなかったとされています。しかしながら勝敗が問題ではありません。遺稿になった『最初の人間』では、名も知れぬ先祖の末裔として生まれ、何の遺産もなく、ごく貧しい家庭に育った名もない“最初の人間”カミュの少年時代は、厳しい生活の中にもそれゆえにこそ周りの人々との狂おしいばかりの愛情と友情に溢れていたのだということを知りました。私のようにごく平凡な人生を送ってきたもつけども、この不条理の原点には強く共感しています。

(あかだ しんじ)

赤田先生がご紹介いただいた「シーシュポスの神話」は、本館で所蔵しておりますが、現在本館工事中のため利用できません。工事終了後、ご利用できます。

所在：本館旧書庫 3～5 層 請求記号：958/C14/2 図書ID：05834591

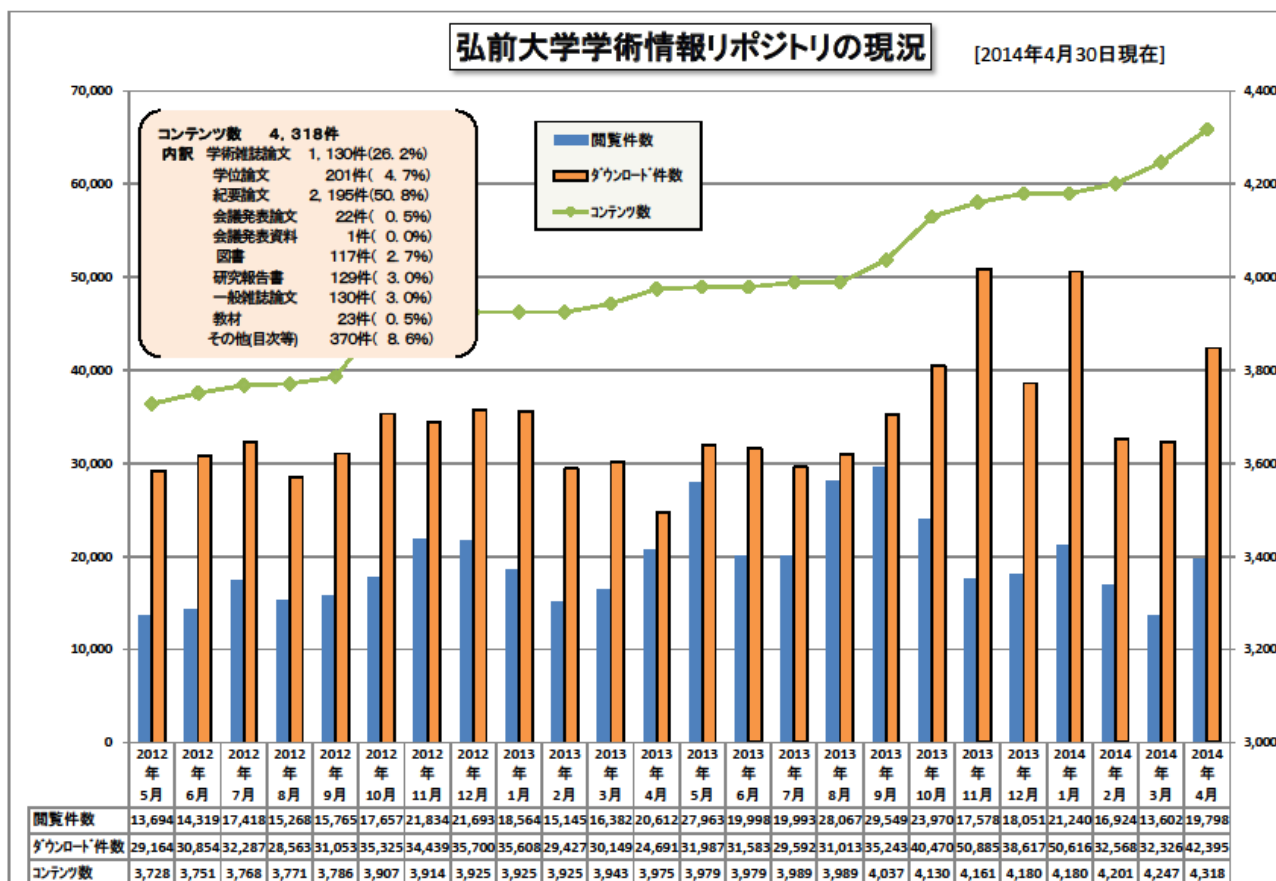
# 図書館に関する話題 第13回

## 弘大リポジトリのトピックスあれこれ

研究推進部学術情報課 齋藤 香織

今回は、弘前大学学術情報リポジトリ（以下、弘大リポジトリ）の最近のトピックについてご紹介します。

弘大リポジトリは現在、附属図書館業務の一つとして運営されています。2008年5月に正式公開され、はや6年が経ちました。学外での（学内でも？）知名度は今一つの感もありますが、実は地味に数字を伸ばしています。2014年5月現在で、収録コンテンツ数は4,300件以上、2013年度の月平均ダウンロード数は約35,800件となっています。2012年度の月平均は約32,000件ですので、1.2倍に増加しました。



また、スペイン高等科学研究所の世界リポジトリランキング最新版（2014年1月版）では、日本国内135機関中15位にランクされました。弘大リポジトリは国立大学のリポジトリとしては、それほどコンテンツ数が多い訳ではありませんので、それ以外の部分、検索エンジンでのヒット率やSNSでの注目度が高く評価されたのではないかと推測します。また、21世紀教育センターと農学生命科学部よりお申し出があり、合計約180件の紀

要論文等を新規登録できたことも、更新頻度が高いという評価につながったものと思われます。

最近の大きな動きとしては、2013年度より博士論文のインターネット公開が法律（学位規則）により義務化されました。博士課程に在籍中の方および進学予定の方は、ご自分の博士論文がいずれインターネット公開され、世界中からアクセス可能となることを頭において論文をご執筆いただければと思います。

学術雑誌への投稿論文を学位論文とする場合は、出版社との間で著作権の問題が発生することがあります。学術雑誌に投稿する場合、著作権の一部（複製権等）を出版社に譲渡するという条件が付されていることが多いため、自分で執筆した論文であっても、出版社に無断でインターネット公開できないケースがあります。

最近の状況では、大手出版社は条件付きでリポジトリ掲載を認めていることが多いです。よくある条件は、学術雑誌掲載後、一定期間が経過した後ならば掲載を認める、出版社版は掲載不可だが著者版なら掲載可、掲載雑誌名、巻号、掲載ページ、DOI等を明記する、といったものです。著者版とは、それぞれの雑誌固有のレイアウトに組み込まれた完成形ではなく、Word等で書かれたままの状

態の論文です。雑誌に投稿する論文をいずれリポジトリに掲載するかもしれないという場合、途中経過の状態の論文も保管しておくことをお勧めします。図書の場合は、発行されてから相当の年月が経過し、絶版等で容易に入手できない状況にある場合などは、リポジトリ掲載の許諾がもらえることがあります。

弘大リポジトリは、これからもコンテンツを増やし、地道に成長を続けていきたいと思っています。リポジトリはつまるところ、コンテンツの保管場所であり、コンテンツ無くしては成り立ちません。学内の先生方、大学院生の皆さん、ぜひ登録をお願いいたします。

(さいとう かおり)

## 他大学図書館紹介

### 弘前医療福祉大学総合図書館

弘前医療福祉大学図書館長 加地 隆

弘前医療福祉大学は、昭和40（1965）年に設立した弘前料理学院が起源で、平成21（2009）年に開学、短期大学部は平成14（2002）年に開学し、今年短期大学としては全国初の3年制での救急救命学科を付設、スタートしたばかりの発展中の大学です。現在、図書館ではコンピューター関係の整備をしながら、大学の図書を充実させつつ、短期大学部のとくに救急救命学科関係の図書を購入しています。大学は小規模でまた開学からの年数が浅いため、蔵書数は十分とは言えませんが、教

員の指導や学外実習中の長期貸し出し制度等もあり、また卒業生を含む学外からの利用も多く、グループ学習室の利用も含めて、図書館がよく利用されているのが特徴となっています。地域の人たちによって生涯学習のために有効活用していただけることも本学図書館の重要な課題と考えています。また、大学1年次学生のカリキュラムにおいて今年度からスタートした基礎ゼミナールにおける各種指導により、図書館の本がさらに良く利用されることを期待しています。

次に、大学開学以来の最近5年間の本学図書館の取り組み方や特徴について、上に述べた事と関連して、またそれ以外の点についてご紹介します。

1. 新着本コーナー（写真1を参照）や推薦書コーナー等により学生に興味をもたせ、本を手にとって内容を見る機会をつくる試みをしています。
2. 敷居を低く、視野を広くする試みとして、ブックレット（小型本）コーナーを設置しました。
3. グループ学習室を館内に2部屋設置（写真2を参照）しており、この部屋は各種試験の勉強会や卒業研究等とも関連して利用頻度が高いようです。
4. 図書館事務員が2人に増え、事務処理や利用者へのサービスも円滑になりました。
5. 館外にある学内掲示板を用い、またわかりやすい館内案内表示により案内・情報提供をしています。

6. 学内外の利用者が蔵書検索できる OPAC を整備し、また学生や教員のために専門家による情報検索法の利用者講習会も開催しています。
7. 大学紀要および短大紀要といった本学発の雑誌の陳列に加えて、開学 50 周年の年でもあり、本学教職員等によって本学在籍中あるいは在籍中の仕事をもとに出版された、言わば‘本学発の本’を陳列するためのコーナーの設置を計画中です。



写真1 新着本コーナー



写真2 グループ学習室



# Library News

## 附属図書館参考図書書架及び新着図書コーナーの整備について

附属図書館本館の耐震改修工事に伴う館内の環境整備の一環として、参考図書室の書架及び新着図書コーナーのディスプレイラックの整備を行いました。



参考図書室用書架



新着図書コーナー用ディスプレイラック

工事は平成 26 年 3 月 14 日（木）から 3 月 17 日（月）にかけて実施し、参考図書用書架 6 台と新着図書コーナー用ディスプレイラックを 1 台設置しました。

参考図書用書架については、棚一段当たりの高さゆとりのある書架となり大型の資料が取り出しやすくなるとともに、従来の 3 段式の書架 10 台を 5 段式の書架 6 台に置き換えることによって、捻出された空きスペースに 4 人分の閲覧用机と椅子を増設し、閲覧利用者の便宜を図ることができました。

新着図書コーナー用ディスプレイラックについては、メッシュ式のボードにフックスタンドで図書を展示する方式となり、利用者に対してより効果的に図書をアピールできるようになりました。

今回整備された設備は、耐震改修工事完成後それぞれのコーナーに移設の上、引き続き使用する予定です。

## 「太宰治英語ノート」デジタル版公開

附属図書館では、12 月 20 日より、貴重資料に指定されている「太宰治英語ノート」のデジタル版を附属図書館のホームページ内で公開しました。昨年の「阿仁鉦山関係絵図」に続き 3 件目の公開となります。

太宰治英語ノートは、平成 21 年 9 月、小野正俊氏（神奈川県逗子市在住。著名な郷土文学研究家小野正文氏のご子息）から、寄贈を受けたものです。なお、平成 26 年度中に「太宰治修身ノート」のデジタル版を公開する予定です。

## 医学部分館開館時間延長及び館内整備について

医学部分館では、学生等からの要望を受け、平成26年4月より閉館時間を20時から22時に延長しました。また、1階に持ち込みパソコンが利用できるスペース（図書館内の電源が使用可能）を用意し、利用者サービスの改善をはかりました。

利用者の皆様の学習や研究に貢献できるよう引き続きサービス向上に努めて参りますので今後ともよろしくお願いいたします。



## 弘前大学出版会より新刊紹介

### 『東日本大震災からの復興(1)想いを支えに』

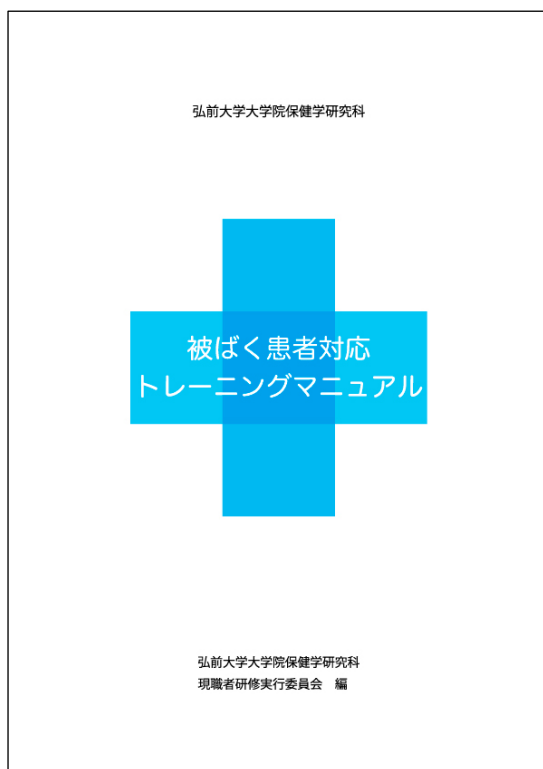
監修：李永俊・渥美公秀



「今、こうやって振り返ってみて、娘や孫たちにしゃべっておかなければいけないと思ったのは、この恩返し。世の中の人たちに。」本書は、岩手県九戸郡野田村の住民による東日本大震災の経験を「聴き書き」した記録である。震度5弱の揺れに襲われた野田村には、大津波が押し寄せ、全世帯の約3割の家屋が被害を受けた。この未曾有の経験とはどのようなものであったのか、またそれ以前の村の暮らしはどのように営まれていたのか、そして人々はこれからの未来をどのように思い描くのか。本書にはこうした、年代も性別も異なる19人の野田村民のさまざまな語りが、聴き取り者とのやりとりを含めて、まとめられている。筆舌に尽くしがたい震災の様子を、ときに涙しながら、後世のためになるならば、とお話をしてくださった。野田村はもちろんのこと、多くの被災地の復興に向けて、また次世代の子どもたちへの教訓としても、本書が寄与するところがあれば幸いである。

## 『被ばく患者対応トレーニングマニュアル』

弘前大学大学院保健学研究科現職者研修実行委員会 編




本書は、大学や病院などの機関が被ばく患者対応トレーニングを開催するための、本邦初のマニュアルです。弘前大学は文部科学省の支援を受け、平成20年から5か年計画で「緊急被ばく医療支援人材育成及び体制の整備」を大学院保健学研究科を中心としてスタートさせました。教職員は、被ばく医療に関する情報を収集するとともに国内外の被ばく医療関連機関でのトレーニングを精力的に行い、被ばく医療の知識とスキルを自ら研鑽し習得してきました。これまで被ばく医療研修は、専門的な機関や組織により行われているものがほとんどでしたが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う原子力災害以来、その重要性はますますクローズアップされています。弘前大学では平成22年から、主に看護職者と診療放射線技師を対象に緊急被ばく医療現職者研修を開催してきました。本書はその研修内容をもとにまとめられたものであり、多くの関連施設でトレーニングを行う際に参考になることを願って刊行されたものです。

## 本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書と資料の一覧

平成25年10月～平成26年3月分受贈分

学部名	寄贈者名	書名	発行所	部数	所蔵先
弘前大学	前学長 遠藤 正彦	医学部こぼれ話	乱反射会	1	本館 1
人文学部	民俗学実習室	新郷村の民俗誌：青森県三戸郡新郷村	弘前大学人文学部民俗学研究室	1	本館 1
	関根 達人	中近世北方交易と蝦夷地の内国化に関する研究	関根達人研究代表（科 研費研究成果報告書）	1	本館 1
	中村 武司	アジアからみたグローバルヒストリー：「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ	ミネルヴァ書房	1	本館 1
	長谷川 成一	特集 環境と持続可能性	北海道東北地域経済総合研究所	1	本館 1
教育学部	元教授 J. N. Westerhoven	De kleurloze Tsukuru Tazaki en zijn pelgrimsjaren	Atlas Contact	1	本館 1

医学研究科	木村 博人	口腔科学 = Stomatology	朝倉書店	1	分館 1
	産婦人科学講座	母子の基礎科学	医学書院	1	分館 1
保健学 研究科	千葉 正司	線描体表解剖学 : デルマトールへの挑戦	考古堂	1	分館 1
農学生命 科学部	前多 隼人	Functional ingredients from algae for foods and nutraceuticals	Woodhead	1	本館 1
弘前大学医 学部 舘桜会	五十嵐 勝朗	北国から贈る明日へのカルテ	ポリッシュ・ワーク	1	分館 1
弘前大学出版会		環境・地域・エネルギーと原子力開発 : 青森 県の未来を考える	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		まいまいさんとなめくじさん	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		津軽から発信! 母国を離れプロフェッションに 生きる : 国際コーディネーター編	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		宣言日本一の地方大学をめざす : 弘前大学法 人化の歩み	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		基礎物理学実験 : 物理科学科用の手引き	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		基礎物理学実験の手引き	弘前大学出版会	1	分館 1
		地域の環境と生活の実験演習	弘前大学出版会	1	分館 1
		白神山地の土壌入門	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
		想いを支えに : 聴き書き、岩手県九戸郡野田 村の震災の記録	弘前大学出版会	3	本館 2, 分館 1
弘前大学附 属図書館	館長 長谷川 成一	特集 グローカル戦略のいま	北海道東北地域経済 総合研究所	1	本館 1
		特集 人々が支えた白神山地の自然	東日本旅客鉄道	1	本館 1
卒業生	伊藤 一輔	よく笑う人はなぜ健康なのか	日本経済新聞出版社	2	分館 2
弘前大学生生活協同組合		弘前大学入学記念アルバム 2013	弘前大学生生活協同組合	1	本館 1

	弘前大学附属図書館報「豊泉」第39号	発行日 : 平成26年5月30日
	編集 / 弘前大学附属図書館広報委員会 発行 / 弘前大学附属図書館 〒036-8560 青森県弘前市文京町1 TEL 0172(39)3162 FAX 0172(39)3171 URL <a href="http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/">http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/</a>	

標題の「豊泉」は、明治9年の「仏国学制」付録上巻中の「人智ヲ広ムルノ豊泉アリ」の文に基づき、  
 松原邦明名誉教授命名 題字：藤原楚水編「書道六體大字典」(三省堂)より